

Last Piece

～コミュニケーションの答え～

「孤独」という呪縛

人間「関係」

- ▶ 人間は、一人で生きているわけではない(し、一人では生きられない)
- ▶ そこに複数いて、「関係」し合ってはじめて人間らしく生きていくことができる(=社会的動物)
- ▶ 関係とは、コミュニケーションが取れている状態のこと

コミュニケーションとは

- ▶ コミュニケーション=価値交換
- ▶ 2種類の価値
 1. 機能的価値(役に立つ、便利である、得がある)
 2. 情緒的価値(好意、興味、刺激)

「価値」交換

- ▶ 人間は、価値交換で関係し合える生き物
- ▶ 価値交換が正常になされていない場合、関係し合えない
- ▶ 一度関係し合えた同士でも、価値交換のバランスが崩れ出すと同時にその関係も崩れ出し、やがて終わる(コミュニケーションが成立し得ない状態)
- ▶ 「価値交換」は、生きて行く上で極めて重要な概念

価値交換スタートの条件

- ▶ 価値交換は、相手に対する人としての「興味」や「関心」、「期待」があってはじめてスタートする
- ▶ 相手に対して興味も関心も期待も持てない場合、それはコミュニケーションにはならない(=価値交換は起こり得ない)
- ▶ 例) 会社員時代、飛び込み営業をしたときのエピソード

- ▶ 人間関係に悩む人の特徴として、価値交換という感覚が欠如しているということが挙げられる
 - 価値を貰う(奪う)ことしか考えていない
 - 逆に、価値を与えることに執着しすぎている

『人は生まれながらにして孤独なのだ』

▶ ↑アインシュタインの言葉

▶ 人は本質的に孤独な生き物

- 生まれてくるときはひとり、死ぬときもひとり
- 人間は「個」であり、心も体も「一人一つ」と決まっている
- 我々は、「自分が創り上げた世界」で生きている
- よって、他者との境界線をなくすことは、他者と一心同体になることはできない
- 唯一無二、ユニーク、個性的…という孤独

孤独の産物

1. 孤独(感)は漠然とした不安感や恐怖感、焦燥感を生む
 2. ネガティブは、活力(エネルギー)を奪う
- ▶ 故に僕らは、孤独感を払拭するための努力を惜しまない
- 仲間や恋人や家族を欲する
 - お金を稼いで色々なもので満たそうとする
 - 誰かを支配しようとし、また支配されようとする

- ▶ しかし、「本質的に」孤独な生き物である僕らに、その努力を实らせることはできない
 - 何かを手に入れても、次はそれを失う恐怖や不安が襲ってくる
 - 集団の中にいることでむしろ孤独(感)が助長されることもある
 - 孤独を解消したという錯覚は、次なる孤独の火種となる

- ▶ 孤独(感)の解消は、現代人にとって根源的欲求となった
- ▶ しかし人が「個」である以上僕らは孤独の呪縛から逃れることはできない

最大の問題

- ▶ 孤独感は、他者に対する興味関心を削いでしまう
- ▶ 自分(の孤独感の解消)にばかり興味関心が向くようになる
- ▶ SNSの流行によりその傾向はより助長されている

- ▶ 孤独 ≡ 死
 - 孤独の行き着く先は「死」
 - 孤独感の解消欲求は、生存本能の一端ともいえる

- ▶ 孤独を解消する術を全て失ってしまった(と感じた)瞬間、人は壊れる(バグる)

コミュニケーションの極意

「人は生まれながらに孤独である」

…という前提に立ってコミュニケーションすること